

⇒ **A1** 学校評価は特別なことではありません。

例えば、物を買った時に、それはいい買い物だったかどうか後で思うように、日常的に皆さんは評価をされています。学校でも同様に教育活動等を評価して改善を行うことは、今までにもなされてきた通常のことです。それを意図的に、計画的に行うのが学校評価です。だから、子どもたちへの指導にもとても役に立ち、必要なことなのです。指導がおろそかになることはありません。

Q2 「学校関係者」とは、誰のことですか。また、どのようにして選ばれるのですか?

⇒ **A2** 本市では、学校評議員、PTA会長・副会長を「学校関係者評価委員」として委嘱しています。その他、学校によっては、接続校教職員（小中学校相互）として教頭、教務や当該

学校の関係団体の方々をお願いしています。選出は当該学校の校長の推薦等によるものです。

P19参照

Q3 第三者評価の「第三者」とは、誰のことですか。また、目的はどんなことですか?

⇒ **A3** 「第三者」とは、当該学校に直接関係されていない方々です。大学教授などの学識経験者、行政関係者などの方々です。当該学校の情報には少ないですが、数多く他の学校の評価を

担当されていますので、より以上に幅広い視野や高い観点からの評価をいただくことができますと考えます。

Q4 「学校関係者評価」は、いつ行うのですか?

⇒ **A4** 学校関係者評価委員が、学校自己評価の結果について、適切であるかどうかを評価します。年に2回、時期は8月（中間学校自己評

価結果の後）と、1月（学校自己評価結果の後）に行います。

P21参照

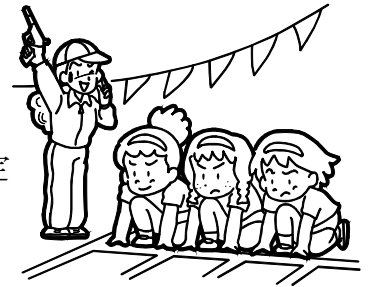
Q5 学校関係者評価委員は何度も学校に行かなければなりませんか？

⇒ **A5** 年に3回の学校関係者評価委員会に出席していただき、学校からの説明や授業参観等の学校生活の様子などを観ていただきます。

また、学校から案内する体育的・文化的な学校行事には時間が許される範囲で出席いただいています。

仕事のご都合もあられますので、学校関係者評価委員会を年3回の日曜参観時に実施したり、開催時刻を夕方7時に設定したりするなど、各学校で工夫して取り組んでいます。

P21、P22参照



Q6 学校のことをよく知らないのに、評価をする自信がありません。学校関係者は学校生活のどの場面を中心に評価するのですか？

⇒ **A6** 学校のいろいろな情報をお伝えしても、学校のことを全て理解していただくことは難しいと考えます。各学校から特に評価していただきたい項目を事前にお伝えして、必要な情報を適時にお伝えするように努めています。

また、評価していただく当日は、時間が許されれば、朝から子どもたちの生活・学習の様子や学校施設等の見学も評価項目にしたがって評価していただきます。年間をとおして、運動会、文化祭、音楽集会、授業参観日、教育の日などの学校行事にもご案内を差し上げます。

P17、P48参照

Q7 児童生徒や保護者へのアンケートの結果は、本当に反映されているのですか？

⇒ **A7** アンケートによって様々なご意見をお寄せいただき、学校評価そして学校改善の貴重な資料として活用させていただいています。学校が気づかなかったご指摘にはすぐに取り組

ませていただいています。また、予算面、施設面など諸事情を含めて検討して、結果を反映させていただいています。その結果は、学校便り、ホームページ等でもお知らせいたします。



教職員のためのQ&A

⇒**A1** 学校評価は、学校組織の活性化、及び学校改善のツール（手段）となります。学校評価は特別に新しいことではなく、今までも学校運営の検証や学校行事の後の反省等で日頃から評価して、次年度に生かしてきた作業について、意図的に、計画的に、組織的に行うというものです。

今までの学校評価の問題点は、次のような点であり、その解決策が嬉野市の学校評価です。

- ① **学校評価に対する理解が不十分**: その有益性の認識が不十分なため、学校評価が一人歩きして、十分に反映されてこなかった。評価のための評価となり、負担感が残った。
- ② **評価システムが機能不十分**
学校教育目標、学年・学級経営案、評価育成システム等とトータルとしての認識及び連動が不十分で、改善にまでは至らなかった。評価の重複性による多忙感や懐疑心があった。
- ③ **一部の者による学校評価**
ごく一部の担当者による評価の分析、改善策の立案によるもので、共通理解が不十分なため、改善策が生かされてこなかった。教職員の参画意識が低かった。
- ④ **改善のための時間確保が不十分**
改善のための時間確保ができていなかった。年度末の多忙な時期と重なったり、次年度の新体制に十分に引き継がれなかったりした。
- ⑤ **学校関係者評価の機能不十分**
学校評議員への学校評価についての説明、教育活動の情報提供や評価の視点の提示が不十分であったため、期待する客観的な評価まで届かず、学校改善にまでは至っていなかった。

Q1【多忙化】教職員は今でも仕事量が多いのに、学校評価を行うと、ますます忙しくなりませんか？ また、今までの学校評価の問題点は、どこにあると考えますか？



Q2 【全職員の参画】学校評価は、管理職や教務の先生方の業務になっている学校もあります。全職員が取り組むために、何か工夫されていますか？

⇒**A2** 校務分掌、プロジェクトにおいて、各担当者が目標、評価の観点、具体的方策などを年度当初に立案し、実践して、それぞれ

評価し、改善策及び次年度の目標まで、一貫して取り組むことによって、全職員の参画と意識改革を進めることができました。また、各月の職員会議、プロジェクト会議においても、各担当者が進捗状況を報告することを協議に盛り込んだり、年三回の学校関係者評価委員会でも、全職員の参加による協議を実施したりします。 **P14参照**

Q3 【嬉野市の重点】嬉野市の学校評価で、一番力を入れている点はどんなことですか？そしてまた、嬉野市では、どんな学校を目指しているのですか？

⇒ **A3** 「2 嬉野市の学校評価の取り組み」でも示しているとおり、基本方針の5点を中心に取り組んでいます。 **P3参照**

その中でも、特に重点としているのは、①と④の2点です。

① 学校関係者評価による客観性のある学校評価

広く、多くの違った外部の視点からの評価をいただき、学校改善を進めます。

④ 地域と一体化して、地域へ開いて出る学校評価

家庭・地域と学校が共通理解して、積極的に地域に出て行く学校を目指します。

今は、学校外部関係からの支援なしでは、学校教育が成立しない状況にあります。嬉野市では、保護者や地域住民の方々からの理解と信頼を得た活力のある学校を目指しています。



Q4 【成果】学校評価を行った学校では、具体的にどんな成果が上がったのですか？

⇒ **A4** 特に2点あげるとして、まず第1は、学校の教職員の意識改革と組織の活性化です。それぞ

れ責任を持つことで参画意識が高まり、学校改善につながっています。第2は、学校関係者、保護者、地域との連携です。特に情報提供の工夫を行い、迅速なメール配信や定期的な学校便り等による学校への信頼が高まって来ています。 **資料P57、P58**

Q5 【アンケート】外部評価は、児童生徒・保護者へのアンケートや教職員の評価とはどう違うのですか？

⇒ **A5** 児童生徒・保護者アンケートや教職員の評価は、学校自己評価を行ううえでの一つの資料として扱います。外部評価とは、学

校自己評価について評価するというものです。

Q6 【情報提供】学校評議員や保護者へ評価するための情報提供の工夫をしていますか？

⇒ **A6** ① 情報提供の工夫（メール配信、学校便り地区回覧、学校活動説明会開催、HP等）

② 学校行事の工夫（日曜参観年3回、授業の見所配布等）

③ 事前資料配布（協議の深化のため）

④ 職員会議の生徒指導関係や校内研修に、学校関係者評価委員が出席するなど各学校で様々な工夫をしています。 **P18参照**



Q7 【分析】学校自己評価と学校関係者評価が分かれた場合どうするのですか？

⇒**A7** この分かれる評価を期待しています。学校の評価の視点や尺度と学校関係者のそれらとが

違うことは、学校にとってより客観的な視点をいただくこととなります。その分析により新たな学校改善の方向性が見えてくるものと思います。 **P33参照**

Q8 【協議時間の確保】学校評価を進めていくための時間（教職員の話し合い等）は確保されていますか？

⇒**A8** 特別に時間を設定することは難しい状況にありますので、職員会議やプロジェクト会議等の中に定期的に位置づけ、進捗状況

等を共通理解するようにしています。

Q9 【市全体の統一】学校評価の進め方や評価項目は、どの学校も同じですか？

⇒**A9** 学校評価及び学校関係者評価の進め方については、市のモデルを提示していますが、各学校において、その学校規模、立地条件等によって、独自性を持って進めています。また、評価項目については、市の共通項目はありません。各学校で作成しています。 **P12参照**

Q10 【公表】学校評価の結果は外部（地域）にどのような形で公表されるのですか？

⇒**A10** 学校便り、ホームページ、PTA役員会等で公表し説明責任を果たしています。また、結果を教育委員会へも報告して今後の教育行政等に生かしていただきます。 **P35参照**

Q11 【小中連携】小中学校9年間を見通した学校評価の取り組みを行っていますか？

⇒**A11** 市内小中学校では学校規模が多岐に渡り、小中合併型、隣接型、連携型があります。学校

評価に限らず、乗り入れ授業、小中合同体育大会、合同弁論大会、合同職員研修会など、様々な取組を進めています。

また、小規模の小中学校で9年間1クラス同一集団の隣接型の学校では、共通項目を設定したり、小中合同PTAを組織したりするなどの方策も考えられています。 **P8参照・資料P58**

